

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1年次生 I.H

1. はじめに

この度、2023年3月6日から3月16日の期間に本学の国際交流基金の助成を受けてオーストラリアに語学研修したのでここに報告致します。滞在期間中は New South Wales 州の North Coast TAFE Kingscliff にて実践的な英語やオーストラリアの薬学について学び、学校から 20 分ほどの家でホームステイをさせていただきました。

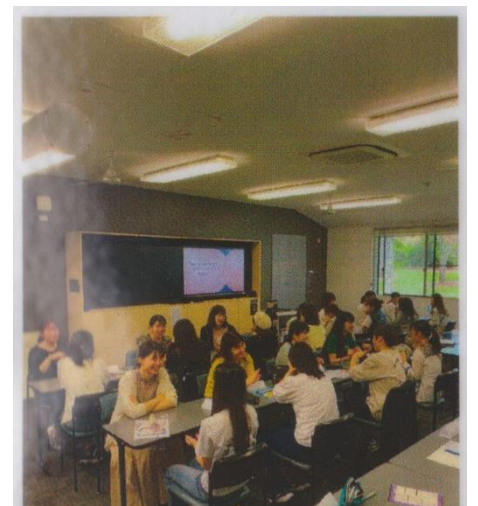
2. TAFE での生活

TAFE (Technical and Further Education) は、オーストラリア内の都市と地域に 200 以上のキャンパスを持ち、様々な単元を本格的に学ぶことができる、州立の職業訓練専門学校です。午前中は英語クラス、午後からは薬学クラスを受講しました。



英語クラス

ここでは、ホームステイ先で使うことのできる基本的な日常会話やオーストラリア特有の発音を中心に授業が行われました。そのほかにも、海の危険性やオーストラリアの先住民であるアボリジニについての学習も行いました。アボリジニの音楽を聴きながらその内容について話し合ったり提示されるテーマについて意見を出し合ったりと一貫してコミュニケーションを重視した参加型の授業が行われました。さらに少人数を活かしたクイズ形式や伝言ゲーム形式などの英語を楽しんで学ぶことができる工夫が多くありました。TAFE の先生方は、私たちが理解できるまで簡単な単語に置き換えて何度も説明してくださり、日本では学ぶことのできなかつた細かい表現の違いまで知ることができました。



英語クラス

薬学クラス

ここでは、英語でオーストラリアの薬学について学びました。オーストラリアの薬学団体の数や、薬剤師の人数、薬剤師一人当たりが扱う処方箋の数などをはじめとし、オーストラリアで使用される有名な薬や薬局の内装、薬局で受けられるサービス、薬剤師の役割なども学びました。一回生であることもあり、日本の医薬品給付システムや地域での連携などについてはまだ理解していない部分も多く、オーストラリアの医薬品給付システム(PBS について)や地域薬局協定(The Community Pharmacy Agreement/ CPA)については授業後に復習として日本の薬学事情を調べるという形で授業に取り組みました。そのほかにも薬の処方の仕方 (webster care シリーズの Flexi-pack) や「医薬品および毒物の統一スケジューリングに関する基準 (Standard for Uniform Scheduling of Medicines and Poisons/SUSMP)」などに関しては、日本ではここまでまとまった体系ができていないのではないかというような画期的な部分にも触れることができました。この授業は知らない専門的知識の必要な部分が多いという面ではかなりハイレベルではあったものの、専門的な内容を英語で学んだことが今までになかったため、貴重な体験をさせていただけたと感じています。

課外活動に関して

薬学クラスの時間を使用し、Griffith University の薬学・薬理学部のキャンパスとアボリジニについて学ぶべく TAFE から 15 分ほどの場所にある Fingal 地方に赴きました。



グリフィス大学



アボリジニ見学

まず、Griffith University では 3 部構成で講義が展開されました。(1) オーストラリアの歴史について、(2) オーストラリアの薬学の現実とグリフィス大学から輩出しようとしている薬剤師の理想について、(3) 薬学と先端科学技術との融合についての 3 つです。また、薬学部の内部の見学の際には、無菌室や調剤カウンターを見せていただきました。実際に webster care シリーズの Flexi-pack という薬の飲み忘れを防ぎ、薬の持ち運びの易化につながる薬の一包化の類似品を作る体験もさせていただきました。



グリフィス大学見学

また、Fingal 地方では現地の方にアボリジニの言語や歴史、暮らしの知恵、植物の有効活用方法などについて教えていただきました。

3. ホームステイ先での生活

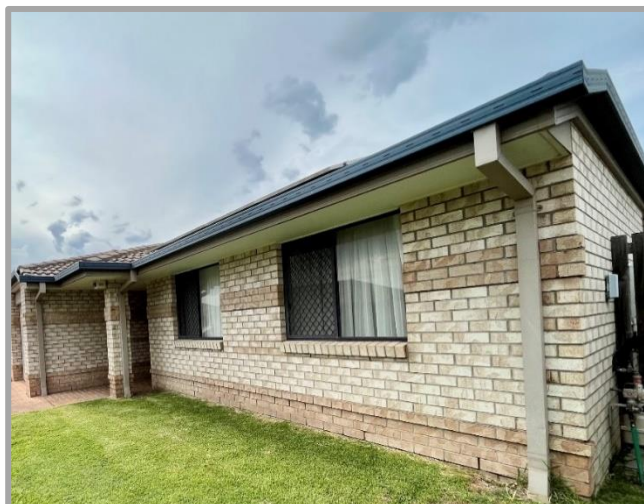
TAFE から 20 分ほど離れた Tweed City にある Shallow Bay Cove という管理区画にある場所に夫婦で暮らしている Vagg さんのお宅にホームステイさせていただきました。ホストファザーの Mick さんは食品工場で、ホストマザーの Tina さんは高齢者介護施設で勤務しておられました。Mick さんは時差線を越えて勤務しているようで家にはシドニータイムの時計とブリスベンタイムの時計がありました。このように少し車で移動すると国内なのにもかかわらず、すぐに時差線を越えてしまいスーパーなどの閉店時間に違いがあるといった日本では考えられない現象も起こっていました。ホームステイ中には自宅のプールや様々なビーチで泳ぐことができました。家では、一緒に家事をしたり、クイズ番組を見ながらオーストラリアについての話を聞いたりしました。また、ホストファミリー同士のつながりがあり、リアンさんの家では食事や送り迎えまでしていただいたこともありました。最終日の自由時間にはリアンさんの家にホームステイされている先輩とショッピングに行きました。



自宅のプール



自宅のバスルーム

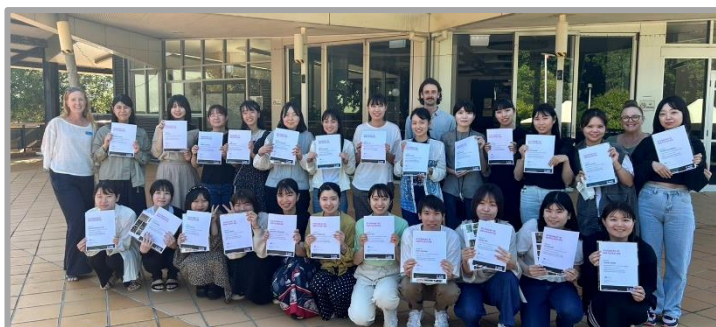


ホームステイ先

4. おわりに

このオーストラリアでの語学研修は短い期間ではあったものの、学校・私生活ともに自分の英語力を試すことのできる場所で学習することができました。また、私にとって英語力だけでなくコミュニケーション能力や積極性の大切さを学ぶことのできる貴重な体験でした。しかしながら、特に薬学に関する授業で感じたことなのですが、自分から関連情報を学ぼうとする意欲なしに授業を聴くだけでは、自分の力にはならないことを再認識させられました。例えば、授業中に理解しているつもりになっていたが実は聞き逃していたと知ったり、習ったことをもう一度自分で調べてみてさらなる追加情報を知ることで興味深く次回の授業を聴くことができたり、というように自分が知ろうという努力をしなければ、つまり復習をしなければ理解できていなかったことがたくさんあったことに気が付きました。大学一年生までは、授業に「出席」し「宿題をこなす」ことしかしていませんでしたが、これからは授業を「聴き」、「予習や復習を行う」ことを実践していきたいです。今回の語学研修にて全く違う環境に身を置くことで、これからの英語学習のモチベーションになったと感じていますが、それだけでなく全ての教科を学ぶ際の態度や考え方に意識改革が起きたと感じています。

最後に、今回の語学研修の機会を与えてくださった国際交流基金助成事業や両親と様々な企画に携わっていただいたオーストラリアの方々ならびに添乗員にこの場をお借りして感謝いたします。



卒業の際の集合写真

